

第44話 スタジオ夜話（番外編）

サウンドドラマの制作

（音の入り口・音源 7）音楽制作のための楽器や編成そのV

☆はじめに

恒例の幕張メッセでの国際放送機器展「InterBEE2016」も終わり年内の関連業界の行事も一段落、FDIも年内最後の号となります。スタジオ夜話（番外編）サウンドドラマ制作、音源のお話し、楽器や編成も管・弦・打のお話しも今回の弦のお話しで次のステージに進みたいと思います。

楽器音源について掘り下げればきりがなくスタジオ夜話ではダイジェスト的にお話ししてきました。制作現場の皆さま諸先輩方には不十分なお話しだったかもしれません。新人の育成のための参考程度にご利用いただければ幸いです。

また様々な楽器を音源として取り上げましたが、劇伴収録時の具体的お話しの中では収録環境や演奏とマイクロフォンアレンジメント、マイクロフォンセッティングの関係など劇伴収録ならではのお話しもしてみたいと思います。音源としてのアコースティック楽器の代表的なものを取り上げてきましたが邦楽器を含む様々な楽器がまだまだたくさんあります。また代表的な楽器でピアノも今回取り上げていません。理由は様々あるのですが劇伴収録時のお話しの際にもう少し詳しく取り上げます。今回は弦楽器のお話しです。

☆弦楽器

代表的な弦楽器といえば既にご存じのとおりバイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスがあります。大きさの大小の違いは明らかなのですが実はコントラバスだけは若干の所属グループ？が違います。（後述）いずれにしてもオーケストラでの一番の主要楽器であることには間違いありません（吹奏楽ではクラリネットなどにあたる）また吹奏楽でもコントラバスはよく用いられます。今回の取材ではバイオリン、チェロ、

コントラバスを取り上げました。

「バイオリン」

様々な書籍や資料にバイオリンについては記されています。ここで改めてお話しすることは必要がないくらいだと思いますが・・・バイオリンは、弦楽器の代表的な楽器です。略称は「Viol」その形はよくご存じだと思います。木製の楽器で4本の弦と弦を弾く弓で成り立っています。起源は中東イスラム圏で使用された撥弦楽器であるとされ、立てて演奏するものと抱えて演奏するものと変化してゆきます。

バイオリンは抱えて演奏するものの進化系と考えられます。バイオリンとして登場したのは16世紀イタリア、当時の絵画などにも登場しています。有名なストラディバリウスは17世紀にイタリアでバイオリンを創った製作者の名前です。スタジオ夜話的に注目したい点はその奏法です。バイオリンはギターのようにフレット（音階をきめる区切り部分パーツ）がないため必要とする音程の音を得るためには訓練が重要とされています。一方そのため様々な演奏も可能です。

その代表的奏法がピブラートです。ピブラートは音に微妙な高低変化を付ける装飾的奏法ですが現在のオーケストラのバイオリン演奏では当たり前のように多用されています。現在ではピブラートをかけない演奏をノンピブラートと指定するくらいになっているようです。さらにバイオリンは同時2和音の演奏が可能です。隣り合った2本の弦で和音を作り同時に弾く奏法です。これを重音演奏といえます。また弦を指で弾く奏法ピッツィカートという奏法もあります。そのほかにも弓の木部で弦を叩くコル・レーニョなどほかにもいくつかの奏法があり表現力豊かな楽器です。

「ビオラ」

形状はバイオリンとほぼ同型で若干サイズが大きいです。バイオリンと比較すると一般的には50mmほど長さが長く胴の厚みもある。サイズは多々あるがバイオリン360mm程度に比較して400mm以上のものが一般的です。音域はバイオリンより完全5度低くチェロより1オクターブ高く調弦するのが一般的です。

演奏技法はバイオリンと同じです。バイオリンには様々なサイズが目的によってありますがビオラは1サイズです。参考までにバイオリンのサイズは子供の練習用に用意されているのですが通常の大人用が4/4フルサイズに対して1/16から3/4まで6サイズ以上あります。演奏者によってはバイオリンは強引な演奏？でも音になるそうですが、ビオラはそうもいかないという人もいます。ビオラを練習することでバイオリンの演奏でもニュアンスなどの表現力を訓練するには役立つそうです。

「チェロ」

チェロもビオラもバイオリンの仲間バイオリン属です。ほぼ同じ構造です。語源はイタリア語Violoncelloに由来しています。チェロをセロと呼ぶことがあるのはこの語源に由来しているからです。オーケストラ譜面にはCelloなどと書かれることもあります。バイオリン、ビオラより低い音域を受け持つため現在では金属弦を使うことが多いようです。バイオリンやビオラは手で持って演奏しますがチェロは床に立てて椅子に座り演奏します。かまえ方などがバイオリンなどと異なりますが基本的演奏方法は同じです。

「コントラバス」

コントラバスは同じ弦楽器なのですが正確にはバイオリン属Violoncelloに由来



コントラバス外観

コントラバスの音高
楽譜は「オクターブ低い」
I II III IV V



バイオリン外観

強弱調整ネジ
弓毛
弓の構造
写の構造

バイオリン
開放弦の音高

バイオリンの開放弦の音高

バイオリンの開放弦の音高

図は開放弦の音程と楽器構造です。参考にしてください。



チェロの外観

チェロの音高
実音記譜

図は開放弦の音程と楽器構造です。参考にしてください。



ではありません。イタリア語の Viola da gamba「脚の～」と訳される gamba 系の楽器の仲間 Braccio「腕の～」と呼ばれるバイオリン属とは区別されることがあります。また弦の数も 5 本のももあります。写真は 5 本弦のコントラバスです。弦楽器では最も低音部を受け持ちます。吹奏楽でもコントラバスは弦楽器なのですが低音部の演奏ではよく使用されます。

60 年代 70 年代のポピュラー音楽では今のエレキベースに代わるまで多用されていました。今でも Jazz の演奏では活躍しています。

☆その他の楽器スタジオ夜話（番外編）で

紹介した楽器以外にも様々なものがあります。きりがありません。またその他の楽器については折を見てご紹介いたします。効果音的に使う楽器としては皆さまの興味を引く邦楽器など多々ありますのでドラマ制作の具体的お話しの中かで解説したいと思います。

*各楽器演奏には日本大学芸術学部音楽学科
「バイオリン」 鳥海寿博 大学院 1 年生
「チェロ」 藤元裕也 大学院 1 年生
「コントラバス」 早崎友有子 学部 3 年生

*解説監修：音楽学科 教授 今泉 久師
毎回のご協力感謝いたします。

☆次回はスタジオ夜話（番外編）サウンドドラマの制作（音の入り口）声（台詞）いよいよドラマ制作の本筋、声（台詞）収録のお話しになります。音源としての声（台詞）は単に音として成り立つものではなくドラマ制作の根幹ともなるもの、収録技法、演出、演技が相まって成り立つ素材です。

次回からは演出、演技、技術の 3 要件からこの声（台詞）についてお話して行きます。いよいよ冬到来、読者皆さま、諸先輩におかれましてはお身体にお気を付け年末、年始をお迎えください。今年もありがとうございました。

— 森田 雅行 —